

平成 30 年 12 月 5 日

養父市議会議長 深 澤 巧 様

総務文教常任委員会

委員長 勝 地 貞 一

総務文教常任委員会調査報告書

閉会中において、本委員会の所管事務調査につき調査したことを次のとおり報告する。

記

- 1 調査年月日 平成 30 年 11 月 21 日 (水)
- 2 調査事項 養父市社会福祉協議会の現状と今後の展望について
- 3 調査内容

社会福祉協議会は地域福祉の推進を図ることを目的とする団体で、社会福祉法第 109 条に位置付けられ、市町村に一つしか設置できない公共性の高い非営利民間組織である。

養父市社会福祉協議会は、理事会、評議員会、監事を置き、八鹿地域に本部、八鹿を含む各地域に支部を設置し、ボランティアセンターの運営、介護事業など総合的な福祉サービスを提供している。福祉目標は「ささえあう心で 笑顔あふれる 福祉のまちづくり ～みんなで作る みんなのしあわせ～」、全市的重点目標は「小地域での見守りあい・支え合い活動をみんなですすめましょう」とし、少子高齢化が急速に進展する中で、行政、地域自治組織と連携しながら福祉活動を進め、地域住民が地域で住み続けられるよう支援している。また、行政区ごとに福祉連絡会を組織し、地域内の連携を深め、地域全体の課題を共有しながら情報交換、見守り活動、交流、研修などを行い、お互いに助け合いつながりを強める福祉のまちづくりを進めている。

養父市社会福祉協議会の財源は、養父市からの補助金・受託金が大きなウエイトを占めているが、養父市の行財政改革により補助金が大幅に削減され、補助金による地域福祉活動が困難となった。このため、平成 20 年に検討委員会を立ち上げ、公費を伴う事業のあり方を検証し、52 事業のうち 12 事業を廃止、職員の早期退職や期末手当削減などの改革を行う中で、サービスを低下させることのないよう福祉活動を展開している。

〈まとめ〉

養父市社会福祉協議会は、養父市の福祉制度ではカバーすることができないきめ細やかな地域密着型の支援活動を行うことで、地域福祉の推進と地域の福祉力向上に大きく貢献している。

しかし、介護保険事業など、収入面において厳しい現状にあることは否めない。職員自身の期末手当削減などで経営を支えているが、平成 30 年度予算では 1,400 万円もの赤字を見込んでいる。養父市も必要な人件費などを支援しているが、但馬近隣市町に比べて低いことも事実である。社会福祉協議会の貴重な財源である寄附金等も地域に還元しなくてはならず、自助努力も限界であり、公助である公的支援が求められている。

養父市社会福祉協議会は、兵庫県社会福祉協議会の推薦を受け、平成 30 年度全国社会福祉協議会会長表彰の一つである「社協優良活動」を受賞した。

養父市においては、社会福祉協議会の持つ機能が十分に発揮されるよう、行政区や地域自治組織の協力も得ながら地域住民の福祉意識の醸成を図り、地域の課題を「我が事」として捉えられるような地域づくりのため、養父市社会福祉協議会との連携した取組に努められたい。